

「日本人延べ宿泊者数〔大阪〕」の見直しについて

- 「内外からの誘客に関する数値目標」のうち、「日本人延べ宿泊者数〔大阪〕」について見直しを検討
- 現在、国において、新たな観光立国推進計画を策定中（今年3月末閣議決定予定）

■ 内外からの誘客に関する数値目標「日本人延べ宿泊者数〔大阪〕」について

指標	目標値(2019年実績)	達成をめざす時期
日本人延べ宿泊者数〔大阪〕	2,950万人泊	2022年

◇達成をめざす時期が2022年であることから、「**目標値**」及び「**達成をめざす時期**」について検討が必要

- ・ 2022年実績見込は、約2,780万人泊と試算（2022年11月末時点の実績2,503万人泊＋2019年12月実績の110%）
- ・ 目標値2,950万人泊に対し、ほぼ達成の見込み（目標値比▲170万人泊、▲6%）

⇒ 現時点では先行きが不透明なため、2023年までの目標値を設定。2023年度中に2025年までの目標値を設定

（参考）日本人延べ宿泊者数（大阪）の推移

	目標値	達成時期	考え方
案1	2,950万人泊	2023年	2022年実績見込（約2,780万人泊）＋約170万人泊（コロナ前、5か年の平均増加率 約6%）
案2	3,000万人泊		2022年実績見込（約2,780万人泊）＋約220万人泊（コロナ前、4か年の平均増加率 約8%）

	延べ宿泊者数（人泊）	増加（%）
2014年	22,169,090	—
2015年	21,400,410	△3.5
2016年	21,001,640	△1.9
2017年	21,540,440	2.6
2018年	24,773,830	15.0
2019年	29,501,340	19.1

出展：観光庁「宿泊旅行統計調査」

【主な論点】

- 達成時期：達成をめざす時期を2023年までの1年間と暫定的な期間とするのか、万博のインパクトを見込んだ、戦略の取組み期間である2025年までの期間（国の新計画（素案）と同様）とするのか。
- 目標値：めざすべき目標値として適当か、また目標設定の考え方は妥当か
- 質の向上：国の新計画（素案）では、質の向上を重視する観点から、人数に依存しない指標を中心に設定することとしているが、戦略2025の指標への対応をどうするか（旅行消費額指標の追加など）